

成果の説明書

(氏名) 小熊 仁	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>○ 研究活動</p> <ul style="list-style-type: none">・ 科研費（若手研究 B）に関する研究 <p>① 京丹後市丹後町「ささえ合い交通」に関するアンケート調査</p> <p>公共交通の住民参加とソーシャル・キャピタルの関係に関する実証分析を行うために、京丹後市丹後町のささえ合い交通を対象とし、ささえ合い交通と NPO・ボランティアの現状についてヒアリングを実施した。また、丹後町住民を対象としたアンケート調査に向けて、「NPO 法人気張る！ふるさと丹後町」および京丹後市企画調整課と打ち合わせを行い、アンケートの内容、質問事項等について調整を行った。さらに、住民基本台帳のなかから層化無作為抽出法により、1,134 サンプルを抽出し、アンケート調査に向けた準備を整えることができた（アンケートは平成 30 年 6 月に実施予定）。</p> <p>なお、ヒアリングの結果については、早急にその内容を整理し、既に下記のコンファレンスにおいて報告を済ませている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ T.,Timo & <u>Oguma, H</u> “Limits of mobility: public transport in over-aged and depopulated rural Japan” , The 15th EAJS International Conference, August 31 , 2017, Lisbon, Portugal. <p>② 青森県鱒ヶ沢町「弘南バス深谷線」における住民参加とソーシャル・キャピタルの関係に関する実証分析</p> <p>青森県鱒ヶ沢町の弘南バス深谷線沿線住民 1,303 名を対象にアンケートを行い、バスの維持に対する WTP（Willingness to pay）とソーシャル・キャピタル等社会経済変数との関係についてマルチレベルモデルを用いて分析を行った。この成果は以下の学会で報告予定である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ <u>小熊 仁</u>「ソーシャル・キャピタルが地方公共交通の住民参加に与える影響～弘南バス深谷線の調査結果から～」公益事業学会 2018 年度大会,2018 年 6 月 10 日,一橋大学。・ <u>H., Oguma</u> “Does social capital enhance the involvement of residents in public transport? : a multilevel analysis of rural area in Japan” , The 13th ISTR International Conference, July 10 , 2018, Amsterdam, Netherland. ・ 科研費（基盤 B：海外学術調査）に関する研究 <p>障がい者、高齢者を対象としたスペシャル・トランスポートと条件不利地域における行政の移動支援策を調査するために、ドイツ、フィンランドを訪問し、担当者へのヒアリングおよび意見交換を行った。訪問先は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ドイツ：Burgel 市、ProBahn Thuringen 州乗客会、JES（Saale-Holzland 郡のバス会社）、VMT 交通連合・ フィンランド：フィンランド交通省、フィンランド社会保険庁、タンペレ市交通局、ヘルシンキ市福祉局 <p>③ その他の研究</p> <p>下記の著書の分担執筆および寄稿を行った。</p> <p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「観光まちづくりと NPO」塩見英治・堀雅通・島川崇・小島克巳（編）『観光交通ビジネス』成山堂書店, 全 291 ページ,2017 年 6 月。・ 「郵便事業」塩見英治（監修）鳥居昭夫・岡田啓・小熊仁『自由化時代のネットワーク産業と社会資本』八千代出版,全 278 ページ,2017 年 6 月。	

【寄稿】

- ・ 小熊 仁「離島航空路線に対する政策対応と路線維持に向けた今後の課題」『Kansai 空港レビュー』(一財)関西空港調査会,第 461 号,2017 年 4 月,25-37 ページ。
- ・ 小熊 仁「公共交通におけるオプション価値の評価と要因分析～北陸鉄道奥能登バス木の浦線を事例として～」『経済研究所年報』中央大学経済研究所,第 49 号,2017 年 9 月,35-55 ページ。

○ 教育活動・社会活動

本年度は、「交通政策論」(前期)、「初年次ゼミ」(前期)、「観光交通論」(後期)、「グループ研究 I」(後期)を担当した。また、「演習 I」への準備として、ゼミに決定した 2 年生を対象に隔週でプレゼミを開催した。ここでは観光に関わる基本文献の輪読と研究ノートの作成(月 1 回)を行い、受講生が観光政策学科において今後研究をすすめるための基礎知識の習得と早期の卒論作成に向けた準備を整えることを目標に活動を実施した。

学内業務としては、入試運営委員会の委員として、入学試験関連業務に携わった。そのほか、高校への体験授業として「整備新幹線と並行在来線問題～北陸新幹線を題材として～(富山県立入善高校,2017 年 7 月 25 日)」と「バスがはじめてなくなった市で考える地方公共交通問題(群馬県立館林高校,2017 年 11 月 6 日)」の 2 件を担当した。他方、社会貢献活動としては、国土交通省北陸地方整備局事業評価監視委員会委員として、北陸地方における国道、河川、治水、港湾をはじめとするインフラ整備の事業評価を行った。

2 その他の事項

特になし

3 次年度以降の計画・抱負

来年度は科研費(若手研究 B)の研究が最終年度を迎えることから、調査の速やかな実施と取りまとめに力を注ぐ。また、もう 1 つの研究テーマとして離島航空輸送の維持に関わる調査分析も同時にすすめ、研究費の獲得および早期の成果の公表を目指して取り組んでいきたい。